

福島第一原子力発電所 土壌中のSr分析結果<1/3>

1.測定結果：

(データ集約:6/27)
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約500m) ¹	平成25年10月14日	N.D.	$(2.0 \pm 0.07) \times 10^1$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D.	$(5.4 \pm 0.11) \times 10^1$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹		N.D.	$(4.7 \pm 0.11) \times 10^1$
過去の測定値の範囲(平成11年度～平成20年度) ²		-	ND～4.3

1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。

2：出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」
(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

検出されたSr-90の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以上

福島第一原子力発電所 土壌中のSr分析結果<2/3>

1.測定結果：

(データ集約:6/27)
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約500m) ¹	平成25年11月11日	N.D.	$(1.5 \pm 0.05) \times 10^1$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D.	$(8.0 \pm 0.44) \times 10^1$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹		N.D.	$(1.7 \pm 0.029) \times 10^2$
過去の測定値の範囲(平成11年度～平成20年度) ²		-	ND～4.3

1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。

2：出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」
(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

検出されたSr-90の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以 上

福島第一原子力発電所 土壌中のSr分析結果<3/3>

1.測定結果：

(データ集約:6/27)
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Sr-89	Sr-90
グラウンド(西北西約500m) ¹	平成25年12月16日	N.D.	$(5.6 \pm 0.13) \times 10^1$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D.	$(1.0 \pm 0.017) \times 10^2$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹		N.D.	$(3.6 \pm 0.10) \times 10^1$
過去の測定値の範囲(平成11年度～平成20年度) ²		-	ND～4.3

1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。

2：出典「平成21年度 原子力発電所周辺環境放射能測定結果報告書」
(福島県原子力発電所 安全確保技術連絡会)

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

検出されたSr-90の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと比べ高い値となっていることから、今回の事故に由来することが考えられる。

以上

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1.測定結果：

(データ集約:6/27)
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ()は1,2号機スタックからの距離	採取日	Pu-238	Pu-239+Pu-240
グラウンド(西北西約500m) ¹	平成26年1月13日	$(3.8 \pm 0.86) \times 10^{-2}$	$(2.5 \pm 0.70) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約500m) ¹		N.D. [2.2×10^{-2}]	$(4.2 \pm 1.0) \times 10^{-2}$
産廃処分場近傍(南南西約500m) ¹		N.D. [2.4×10^{-2}]	$(6.4 \pm 1.4) \times 10^{-2}$
国内の土壤(昭和53年～平成20年) ²		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. ~ 4.5

[]内は検出限界値を示す

- 1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。
2：出典「環境放射線データベース」(文部科学省)

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

平成26年1月13日に検出されたPu-238とPu-239+Pu-240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

以上